

## 旧坂嶺校区における

### 防災訓練

#### 防災講話

令和6年11月23日(土)、旧坂嶺小学校区で地震・津波を想定した防災訓練が、喜界町と内閣府の主催、鹿児島県、気象庁及び自衛隊が連携して実施されました。津波避難訓練や要救助者の救出訓練が自衛隊と消防団の連携のもと行われました。その後、体育館での講話では、鹿児島大学共通教育センターの岩船教授が「状況や環境に応じた行動」をテーマに、気象庁名瀬測候所地域防災官からは「地震や津波の情報」に関する講話がありました。さらに、喜界島ジオパーク推進協議会として、喜界島サンゴ礁科学研究所の駒越研究員が「喜界島の地質を知り、災害に備える」をテーマに講話を行いました。喜界島ジオパーク推進協議会の講話ではまず、喜界島の成り立ちについて

の説明が行われました。喜界島は、サンゴが造る地形『サンゴ礁』で形成された島です。特に、サンゴ礁段丘は、地殻変動や海面変動を背景に形成された特徴的な地形です。また、喜界島周辺の奄美海台が、島の下に沈み込んでいる大規模な地形であることも解説されました。



さらに、平成29年に激甚災害に指定された喜界島豪雨災害を例に、雨や地すべりのメカニズムについても詳しい

解説が行われました。山地災害危険地区マップを用いて、表示されている場所だけでなく他の地域でも地すべりが発生する可能性があることが解説されました。駒越研究員は、「被害を最小限に抑える減災のためには、地域の地質を理解することが重要である」と結びました。

### 自然災害とジオパーク

平成24年に第5回ジオパーク国際ユネスコ会議で討議・発表された「島原宣言」では、自然災害におけるジオパークの役割について次のように宣言されました。

「ジオパークにおいて私たちの生きている地球について教育することは、私たちの地域社会が、ジオの災害を時として起こす自然と如何に共存するかを理解するのに最も効果的である。」  
(一部抜粋)

この考え方は、喜界島ジオパーク推進協議会の防災活動においても重要な指針となっています。ジオパークは単



なる地質や自然のアピールの場ではなく、喜界島の人々が島の地形や地質、歴史などについて学び、それを通じて未来に向けた防災や地域の在り方を考え、行動するきっかけの場となります。たとえば、今回のように喜界島のサンゴ礁段丘や地殻変動、過去の災害を知ることで、地震や津波、土砂災害といった自然災害のメカニズムが理解できます。そして、災害時に被害を最小限に抑える減災に向けた行動の意識を高めるための第一歩となります。ジオパークの活動を通じて喜界島を知り、そして未来の喜界島のための行動を起こす契機になればと思っております。